




令和5年9月号



長い夏休みも終わり子どもたちが元気に登校してきました。休み中のたくさんの思い出話を先生やお友達としています。日焼けしていくらか背も伸びたくましく感じます。夏休み前半は、保護者の皆様のご協力をいただき、学校のプールにたくさんの子どもたちが泳ぎに来て楽しく過ごしていました。その後はそれぞれのご家庭で安全な生活を送ることができていました。お世話になりました。まだまだ残暑が厳しく、蒸し暑いスタートとなっていますが、徐々に生活リズムを学校リズムに戻し、毎日健康に登校できるようにしていきたいと思ひます。

ご協力をよろしくお願ひいたします。

・・・正しく知り、子どもたちの健やかな成長を・・・

「ゲーム・ネット依存の実態と対応」 久里浜医療センター名誉院長 樋口 進氏



樋口先生のご講演をオンラインで受講いたしましたので、少し紹介させていただきます。

インターネット利用率は年々増加しています。0歳児11.6%、1歳児33.7%。2歳児62.6%のように使用する年齢が、低年齢化しています。依存性のある物（ゲームやスマホ）は早く始めるほど依存リスクが高いと言われています。依存とは、そのある物の使用や行動の行き過ぎによって、明確に健康面や社会面で問題が起きていることを指します。ゲーム依存はWHO（世界保健機関）で、「ゲーム行動症」という病気に認定されています。

ゲーム行動症は、①ゲームをコントロールできない ②日々の生活の中でゲームが最優先 ③ゲームにより明確な問題がある ④問題はあるがゲームを続ける の4項目で考えられます。（スマホ依存も同様）ゲーム依存の合併問題として、脳の萎縮（記憶・注意・衝動抑制・情緒調整に影響）、体力低下、近視、睡眠障害、不安、遅刻、成績低下、多額な課金、家庭内暴言・暴力、リアルの友だちが減る等が挙げられ、家族関係の悪化も引き起こします。そこで、依存になる前に、ご家庭でのルール作りが勧められています。①使用時間を決める ②使用場所を決める ③使用金額を決める ④ルールを書いて残す ⑤家族もルールを守る（香川県の条例参照）です。ルール作りも子どもと相談して納得した形で作ることが大切です。ゲームを減らした時間、現実の活動を増やすこと、ゲームより楽しい、充実していると感じるようになれば、きっと行動がかわっていきます。ネットやゲームを使わないという生活は今後考えられません。どのように上手にそれらに付き合うか、それを小学生の間に自分に合うスタイルを見つけてほしいと思ひます。



「子どもたちのSNS利用の現状と課題」 NIT情報推進ネットワーク 篠原 嘉一氏

篠原先生は、今子どもたちがはまっているゲームやSNSの危険性について紹介してくださり、様々な落とし穴があることを知りました。スマホなどを使って街中でカメラを向けていると、その写真に写り込んだ人と騒動になることもあるので気をつけること、7月13日から撮影罪が施行されたこと、グルーミング（性犯罪）についても話してくださいました。AIは機械なので内容を忖度できないことやChatGPTを使いこなすためには、国語の授業（ノートに手で字を書く・本を読む）などで読解力を養うことが大切であると教えて頂きました。また、刺激の強いゲーム等を幼少期に与えると、依存症になりやすい、特に3歳から5歳に脳に強い刺激が与えられると脳の成長に悪影響を与えるとうかがい、まさしく今が大事だと感じました。それぞれのご家庭でSNS等の使い方についてちょっと振り返っていただき、安全に望ましい使い方ができているのかを一緒に考えていただけたらと思ひます。

・・・奉仕作業・資源回収 お世話になりました・・・

夏休み最終の土曜日、保護者の皆さんと5・6年生で校地内の草刈りや草集め、草抜き、資源回収を行いました。うだる暑さの中、早朝より、草刈り機部隊が草を刈り、保護者と子どもたちで刈った草を集め、また、家庭から持ち込まれた資源ごみを分別しながらトラックに乗せていきました。要領良く作業が進み、運動場や校舎周りがスッキリ美しくなりました。



学校では、SDGsの学習を進めており、この日集まった資源ゴミで得たお金をどのように使うかも子どもたちと一緒に考える予定です。少しでも「もったいない」「こうすれば使える」「ここに持って行ったら使ってくれる」など、3R（スリーアール）＝リデュース（ゴミを減らす）、リユース（何回も繰り返し使う）、リサイクル（資源として再利用する）の意識を高めていきたいと思ひています。

保護者の皆様のおかげで、美しい環境の中で教育活動が再開できます。

本当にありがとうございました。



